

令和2年度 自己点検・自己評価報告

【評価基準：4できている 3ほぼできている 2改善が必要 1できていない】

I. 教育理念・目的・育成人材像

現 状		
<p>毎年、5年後を見据えた事業計画を作成しており、本校としての組織目的には「看護および医療(リハビリテーション、医療機器安全管理)の高等職業教育を通じて優秀な人材を国内・国外に排出することにより社会に貢献する」ことをミッションとしている。それを実現するためには、建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の教育3本柱を念頭におき、それらを具現化するための「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得られる学校を目指している。</p> <p>更に、各学科においては「3つのポリシー」に基づき、教育目的・教育目標・教育方針を明確に立て、人材育成に必要とされる専門職業教育とキャリア教育の実践による職業人教育を行っている。また、教育の質向上を図ることを目的に、業界人材ニーズに適合するための学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会で意見交換を行い、カリキュラムの改善や学生教育指導における教科教授法などを通して、地域社会に貢献する取り組みができています。</p> <p>次年度には、更に学校および教育の質向上のための、第3者評価委員会設置に向けて準備計画途中である。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.7	3.8	<ol style="list-style-type: none"> 組織目的(ミッション、ビジョン、コンセプト、3つのポリシー等)の周知については、教職員ならびに学生へ「見える化」の明示する工夫と働きかけを実行する。 コロナ渦で授業の環境も変わってきており、教材開発(遠隔授業・学内実習)の変革など今後も積極的に行っていく。 産・学・官・民の連携は、コロナ感染対策を含め引き続き強化を図る。 専門分野に関連する業界・社会・地域のニーズをタイムリーに情報共有し把握する。 教育理念としては人間教育に含まれる社会人基礎力として、学生のコミュニケーション力の向上を図る。 社会のニーズに対応するため、コロナ禍の中でICT教育の充実や、「学び直し」のためにリカレント教育にも積極的に取り組むなど特色のある付加価値教育の充実を図る。

		<p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none">1.組織目的(ミッション、ビジョン、コンセプト、3つのポリシー等)の見える化を実施。2.常時、遠隔授業(オンライン)の実施。(学外実習への導入を検討)3.「社会人学び直し」計画作成。(現在進行中：臨床工学技士専攻科)
--	--	---

II. 学校運営

現 状

【運営方針】

組織目的を実現するため、基本方針である「7つの視点」があり、本校としての視点は基本数字である「5つの数字」を教職員一人ひとりが目的意識を持ち目標達成できるように努めている。

5つの数字とは、①入学者数②退学者数③就職内定数④学費未納者数⑤国家資格合格者数である。今年度の重点課題は①入学者数⑤国家試験合格者数である。

【事業計画】

5年間の事業計画は立てている。内容としては、予算計画(5年間)、運営・実行方針(学校全体、広報、教育、就職、リスクマネジメント、コンプライアンス、働き方改革等)であり、それを定量目標と定性目標で明確にすることで業務効率や質の向上に努めている。

【運営組織】

今年度は、学年部構成を強化することにより、学科間ならびに各部署とのつながりを深めることができる。課題としては、各業務分掌の見直しによる業務改善を図り、無理・無駄を省き、業務の簡素化と効率化を目指す取り組みを行っている。

【人事・給与制度】

人材要件や採用要件など給与支給に関する規定などは、就業規則の通り運用している。所属長により職員評価を行い、次年度の課題を設定するなど教職員の質向上に努めている。

【意思決定システム】

各委員会や会議等を通じて、教職員間の情報共有を行っている。(定例化と委員会・会議の簡素化)今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインの導入を行う。

【情報システム】

業務システムでは、各セクションにおける情報の一元化によりデータ管理ができるようになる。サイボーズの導入では、各々のスケジュール管理を行うことにより業務の理解や教職員の行動把握が可能となる。個人情報保護に関することは、さらに研修を積み、その扱いについての理解が必要と思われる。

自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
4.0	3.7	<p>【運営方針、事業計画】 理念に基づいた運営方針を定め、基本方針の「7つの視点」と基本数字の「5つの数字」を職員は認知し、実行はできているが、半期ごと振り返りを実施し軌道修正を行う。</p> <p>【運営組織】 昨年度の課題であった業務分掌の整備ができなかったことから、次年度も引き続き教務・事務の業務分掌を作成する。作成後は、一人ひとりの業務量の均一化を図る。</p> <p>【人事・給与制度】 人事考課システムは目的設定、中間評価などはなされていないため、今年度の振り返りを実施することにより、次年度の課題や目標設定を行う。また、半期ごとの振り返りを行い目標に対しての修正をする。</p> <p>【情報システム】 業務システムとして広報・就職・教務のシステムがあり、効率化できる仕組みはできているが、その効率化に個人差が生じており、個人差を少なくするためのシステム活用研修を実施する。</p> <p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事業計画の作成(教務全体、学科) 2.感染対策(職域接種の開催、行動基準の策定など) 3.業務分掌の作成(教務部、事務部) 4.半期ごとの振り返りを実施(9月に実施) 5.教務システムの積極的活用(学生一人ひとりの状況把握を行う)

Ⅲ. 教育活動

現 状

【目標の設定】

各学科では、人材養成目的・目標を明確にし「3つのポリシー」の設定をしている。それをしっかりと年間教育プログラム(学年ごと入学前教育～卒業教育)に取り込むことにより、知識・技術の修得や国家試験および就職に対しての成果(目標到達)を出す教育システムとなっている。

【教育方法・評価等】

教育課程の編成については、国家資格系の養成施設の指定規則に基づき組み立てられているため、授業形態や教育内容、学習指導に有効的に活用している。今年度は、理学療法士学科の指定規則の改定がありカリキュラム変更をした。2年後には、看護学科の指定規則の変更に伴い、カリキュラム変更や臨地実習おける見直しの準備に取り掛かっている。

授業評価では、授業内での小テスト、復習予習を交えたレポート課題の強化を図ることにより、学生の到達度の向上を目的とした授業の振り返りの徹底を行うこととする。

【成績評価・単位認定等】

学則(基準の設定等)に基づき、卒業判定会議、進級判定会議、既修得単位認定会議などを通じて成績評価や単位認定を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、成績評価や単位認定で不利益とならないように配慮している。また、卒業課題研究発表会については、学内でオンラインによる実施することになる。

【資格・免許の取得の指導体制】

例年通り、国家試験対策委員会(3年部)も立ち上げ、6月(例年は5月)より本格的に活動を開始する。入学予定者に対しては、プレカレッジ(オンライン)と通信教育で対応し基礎固めを行う。

【教員・教員組織】

専任教員や非常勤講師についての要件はすべて満たしており問題なく学科運営はできている。次年度に向けて教員不足が生じている学科に対して採用準備をしている。

教員の質の向上としては、学園全体での教員研修や学科長研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの実施または中止となる。

自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.9	4.0	<p>【目標設定】 到達レベルは明確に出来ており教員間では周知できているが、学生への周知が不十分なこともあり、意識づけの強化と学習意欲の向上につながる取り組みを行う。</p> <p>【授業評価について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業ごとの振り返りを行い、問題点および改善点の内容を教員間で共有する。また、非常勤講師へのフィードバックも行う。 2.キャリア教育については、キャリア形成づくりのための教育プログラムの構築を図る。 3.キャリアデザインの授業を実施する。 <p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.事業計画にて目標設定(定量・定性)を明確にする。 2.理学療法士学科は昨年度より新カリキュラムで実施。 看護学科は次年度より新カリキュラムで実施。 3.授業アンケートを実施。(前期10月、後期は年度末) 4.キャリアデザイン講座を実施。 5.多職種連携授業の実施。

IV. 学修成果

現 状		
<p>【就職率】 今年度より、キャリアセンターは2人体制となる。原則として就職指導は主に担任および副担任で行っている。内定状況は、12月末現在で80%となっている。県内就職を更に強化していくためには、更に求人の新規開拓が課題となる。</p> <p>【資格・免許の取得率】 国家試験合格100%に向けた国家試験対策を実施するが昨年度は臨床工学技士学科のみ100%達成。現在は不合格者に対するのフォローアップと在校生の対策強化を図る。</p> <p>【卒業生の社会的評価】 卒業生就職先に対する動向調査を実施する。また、卒業生や短大・大卒者を対象としたリカレント教育(学び直しのための生涯教育)に向けた準備も進めていく。(アンケート調査)</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.3	3.2	<p>【卒業生の社会的評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.卒業生が社会的評価を受けるため、在学時に職業適性の確認や職業態度教育の強化を図るなど、ディプロマポリシーに基づく教育プログラムの再構築を図る。 2.卒業教育(継続教育)の教育開発を行う手段として、同窓会活動の実施計画を明確にすることと、学ぶ機会を増やしリカレント教育につなげていく。 3.今後はICT教育の導入により、通信環境などのシステム開発。 4.卒業生に対する追跡調査内容の再検討。 5.キャリアセンター、広報、教務との連携システムの構築。 <p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.在校生を対象にキャリアデザイン講座を教育プログラムに導入する。 2.リカレント教育(学び直し教育)を計画中。

⇒令和4年4月開設 臨床工学技士専攻科(昼間1年制 定員20名)

3.国家試験対策におけるスケジュールの前倒し

V. 学生支援

現 状

【就職等進路】

就職活動支援として、毎年実施している「就職フェア」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる。次年度に向けて、オンラインでの実施も視野に入れた計画を立てる。今年度は、大学編入希望者に対しての指導も行い進学指導も充実してきた。

【中途退学への対応】

オリエンテーション時に、学生状況を把握するためのキャリアサポートアンケートを実施。アンケート結果による個別面談の実施。今年度は、学習支援および生活支援のため学生サポートセンターを立ち上げ学生対応を行っている。昨年度の退学率は1.1%(基本目標0%、実質3%)

【学生相談】

教員のカウンセリングスキル向上のため、カウンセリング研修実施している。基本は、教員が学生面談や学生観察を実施しているが、臨床心理士による専門カウンセリングの支援も行う。

【学生生活】

今年度より日本学生支援機構の修学支援制度(給付型、減免型)の認定を受ける。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困難者に対し臨時の給付金制度も導入される。

健康管理については、例年4月に健康診断を実施している。健診後の再検査や要治療の学生に対して指導を強化し健康管理をしっかりと行っている。

1人暮らしの学生支援活動として、学生専用(本学生専用)アパートについて学校説明会やオープンキャンパスを通じて紹介をしている。現在は満室となっている。

【保護者との連携】

毎年、保護者会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は電話対応とした。内容は現況報告や家庭の状況確認を行う。

【卒業生・社会人】

現在は、リカレント教育を計画している。卒業生に対しての学び直しを提供するための意識調査を準備中。

自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.4	3.1	<p>【学生相談】 学生相談室(カウンセリング)の、オンラインなどを取り入れ利用しやすい環境づくりとシステムの再構築を図る。</p> <p>【健康管理】 学生の観察記録(面談含む)を取り、学生状況今日の把握と教員間の共有を図る。</p> <p>【保護者連携】 入学前保護者説明会や入学後保護会において、学費支援や学校生活(学校行事など)などの理解を深めるため内容を再検討する。</p> <p>【卒業生の支援体制】 同窓会活動の企画で、卒後教育(継続教育)に対しての研修会や勉強会を立ち上げる。コロナ禍における対策としてオンラインを活用した仕組みを構築する。 資格取得者の卒後支援についてはリカレント教育の計画・準備を継続し体制を整備する。</p> <p>【社会人ニーズに合わせた教育環境】 社会人を対象としたサポート体制の充実を図る。 社会人に向けたリカレント教育の体制を整備する。</p> <p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.就職フェア(オンライン)による学生への就職活動支援を実施。 4月-看護、9月-理学、臨工、言語 2.健康管理に関しては、感染予防として祝意期接種を実施。(7月、8月) 3.一人暮らし学生に対して料理教室などのイベントを実施。(学生サポートセンター主催) 4.電話およびオンラインによる保護者会(懇談会)を実施。 5.感染拡大防止として活動基準を設定。(学生用、教職員用)

VI. 教育環境

現 状		
<p>【施設・設備等】 5年後までの修繕計画立てる。次年度は10年目となるために大幅な修繕が見込まれる。</p> <p>【学外実習・インターンシップ等】 職業実践専門課程の質の向上に対し、業界連携の強化を図るため現場実習については、お互いの改善要素を洗い出し、即戦力としての人材養成に努める。 今年度の海外研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となり中止になる。次年度の取組も検討中である。</p> <p>【防災・安全管理】 年1回消防避難訓練を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学内にて映像等を活用しながら消防避難研修会を行う。内容としては、防火管理者が担当し、避難方法、消火活動等であり、今後、学生自身が医療従事者となる心構え、身構え、気構えを学ぶ。 今年度は、新たに新型コロナウイルス感染症対策として、対策委員会の設置とその対応策の検討を行い、学生ならびに教職員へ感染防止や正しい知識を身に付けるなど周知を行う。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.5	3.4	<p>【施設・設備】 大幅な修繕計画を目前にし、施設・設備に関する管理体制を整え、コスト削減も含め修繕や改修については最小限に抑える。</p> <p>【学外実習】 コロナ渦で学外実習が期間・時間の短縮となり、改めて実習体制の整備が必要。そのため、オンライン等を活用した実習プログラム開発が必要となり、その仕組みづくりを行う。</p> <p>【防災・安全管理】 1.防災システムおよびマニュアル化の整備。 2.避難の仕組みや備蓄品の確認を行い、非常時に備えた安全管理体制づくりと環境整備を行う。 3.緊急連絡のための、学生・教職員安否確認システムの見直しを行う。</p>

		<p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none">1.大雨災害により修繕箇所が多発→現在その原因究明と対応をしている。2.オンライン実習について検討。 ⇒教育内容も含め教育課程編成委員会で検討する。3.避難訓練は、昨年度に引き続きオンラインで実施。4.安否確認システムについて9月1日にテスト配信を実施。
--	--	---

VII. 学生の募集と受入れ

現 状		
<p>【学生募集活動】 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン型と対面型で来校者の対応を行う。また、病院側でも職業体験も行えない都合上、本校学内で医療現場が模擬体験できるプログラムを用意し実施する。</p> <p>【入学選考】 本校では、入学前教育として独自の教育システムがある。入学選考の結果より、学力における弱点を補うためのプレカレッジがあり、それと並行して通信教育も行っている。内容は、高等学校での基礎科目の復習が主になる。入学後は、初年次教育(導入教育)を行っており、学力を把握するための確認テストを実施し、学生自身も弱点科目の把握を行い、教員が学習サポートをしている。</p> <p>【学納金】 学費および諸費用については、学校説明会等での保護者会にて説明を行っている。また、経済的に学費支払いが困難な家庭に対して学費支援の説明も同時に行っている。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.8	3.6	<p>【学生募集活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.広報・教務・就職の連携体制強化(情報提供&共有→資料作成、イベント企画) 2.学校広報を全面に引き出し、職業人教育の価値と質を高めるメッセージの配信をする。 例えば 入学前教育(接続教育)⇒職業人教育(職業教育&キャリア教育)⇒卒後教育(継続教育)を分かりやすく告知 <p>【入学選考】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.アドミッションポリシーの教職員における再認識。 2.可否の概念を取り除き、入試・入学前に本校で学び成長させる要素を兼ね備えた入試制度の開発を行う。 <p>【学納金】 保護者説明会での配布資料やプレゼンテーションの工夫を行う。(特に学費支援)</p>

		<p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none">1.多彩なイベント企画および、来校型・オンライン型で実施。 ⇒職業体験、セミナー、動画視聴など2.全体説明会や保護者説明会で、入学前教育から卒業教育までの職業人教育としての教育システムを紹介。(エンロールマネジメントの実践)3.選抜方式の開発。 (総合型選抜⇒各人のキャリアデザインにつなげ、育成しながら入学に結び付ける仕組み)
--	--	---

VIII. 財務

現 状		
<p>【財務基盤】 毎年、収支計算書を作成し収入・支出の確認を毎月ごとに確認を行っている。事業計画では5年後の収支計画も立て、将来の学校経営の目安となり、計画的に中長期計画を立てることができている。 チェック機能としては、年3回の収支計算による修正予算を立て収支バランスを調整している。</p> <p>【予算・収支計画】 上記に記載してあるように、収支5か年計画を立てている。単年度については、年3回の収支計算書による見直しを常務理事(学校長)と事務局次長で行い修正をしている。大きく左右される経費としての重点ポイントは、人件費、広報費、実習費である。収入の部では、学費分納者の学費回収がポイントとなる。</p> <p>【監査】 内部、外部の監査役の立会いの下、監査を実施し指導、助言を受け改善にあたる。</p> <p>【財務情報の公開】 ホームページにて情報公開を行っている。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.8	3.9	<p>【財務基盤】 収入については、学生募集と退学防止計画、効果的・効率的要素を含めた支出計画の再考をする。</p> <p>【財務分析、予算の執行管理、単年度予算と中期計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月ごとの予算計画(予算管理表)チェックの実施。 2. 勘定項目別分析の実施。(講師料、実習費、実習材料費) 3. 中間計画については、新規事業計画の策定を実施。 <p><令和3年度7月末までの取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 収入ー広報活動(学生募集力)の強化。

		<p>(イベントー企画力、人ー広報力、マネジメントー運営力)</p> <p>2.収入ー新規事業計画(臨床工学技士専攻科の設置)</p> <p>3.支出の削減。(3 か月ごとの支出明細チェック→その都度の改善・修正を図る)</p>
--	--	--

IX. 法令等の遵守

現 状		
<p>【関係法令、設置基準等の遵守】 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習施設の受入が不可となる施設があり、その補充として追加施設の申請を県に提出する。また、言語聴覚士学科の募集停止と新学科(医療総合学科)設置に伴う学則変更(目的変更)を行う。</p> <p>【個人情報保護】 個人情報保護に関する研修を、web を通じて毎年行っている。また、取り扱いについても慎重に取り組んでいる。</p> <p>【学校評価】 今年度は、学校関係者評価委員会の実施が、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され8月の実施となる。委員会メンバーも一新され次年度への新たな改善点や課題もあり、組織目的や運営方針に掲げた理想となる学校運営を目指すことに努めている。 更に、次年度より第三者評価委員会の設置計画も立てる。</p> <p>【教育情報の公開】 ホームページにて情報公開を行っている。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.9	4	<p>【関係法令、設置基準等の遵守】 特に、コロナ禍における遠隔授業や実習変更については、あらかじめ最悪な状況を予測し、速やかに変更に対する処置ができる体制と行政における対応策を考える。</p> <p>【個人情報保護】 教職員個々に対する認識を強化するための研修会を実施し周知徹底を行う。</p> <p><令和3年度7月末までの取り組み> 1.行政への報告および届出(新規の手続き) ・臨床工学技士養成課程指定申請(県、厚生労働省) ・修学支援制度更新申請(県、文部科学省)</p>

		<ul style="list-style-type: none">・職業実践専門課程更新申請(県、文部科学省) <ol style="list-style-type: none">2.人員確保⇒現在募集中(各学科の専任教員)3.「働き方改革」の実践。
--	--	---

X. 社会貢献・地域貢献

現 状		
<p>【社会貢献・地域貢献】 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた地域行事への参加は、全てが中止となり実施できなくなる。 ただ、地域住民の皆様より学生に対しての支援物資を援助いただきことができ感謝している。次年度は、今まで以上に地域行事に対して貢献したいと考えている。 例年、行っている海外研修プログラムも中止となり、今後はオンライン等での対応策を考える必要がある。 今後は、本校としての社会貢献や地域貢献活動において、産学連携の強化を図り学校発信型の企画・提案を実施していくことが課題となる。</p> <p>【ボランティア活動】 毎年、年間行事としても予定していたボランティア活動も、すべて中止となる。今後は、業界や地域等の状況を確認しながら、参加する方向へと考えていきたい。</p>		
自己点検評価	学校関係者評価	今後の課題と対策
3.0	3.1	<p>【社会貢献・地域貢献】 外部に対する取り組みは、これからも困難と考え、学校資源を有効に活用してもらうため、オンライン配信や地域住民に学校施設を積極的に利用してもらえる提案をすることと、行政(出雲市)を通じて発信協力を得る。</p> <p>【ボランティア活動】 ボランティアに対する学生の意識改革が必要であり、意義や精神さらには社会的予備知識(行動力、協調性、人間性、倫理観など)として身に付ける必要があることを認識させるための取組を考案する。</p> <p><令和3年度7月末までの取り組み> 1.世代別イベントの実施。 (小学生から高校生および地域住民を対象とした内容で実施) 2.上記イベントに対して、学生への積極的参加の働きかけを行う。(学生スタッフの育成)</p>

		<p>3.学校コンセプト(4つの信頼)に関する運営。</p> <p>◎職域接種の実施</p> <p>⇒対象：学生、家族、教職員、教育関連、業界、地域住民など</p>
--	--	--